

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校
新聞部
近江八幡市立資料館号

写真を通して見れる昔の景色



1974年(昭和49年)3月1日に開館した近江八幡市立資料館(郷土資料館)が去年、開館50周年を迎えた。これを記念して秋季企画『古写真展 資料館が見つめた風景』が9/27～12/22にかけて行われた。そこには近江八幡市内の趣深い写真があった。

昨年12月19日、滋賀県近江八幡市新町にある近江八幡市立資料館(郷土資料館)へ取材のために赴いた。そこには、過去の近江八幡市内の写真やそれを模した模型が展示されていた。

伝統産業である『八幡靴』や『資料館だよりのかよい帳』が綴られたいくつかのファイル、近江八幡火祭りの様子を表した模型や市指定文化財の『千石船絵馬額』、約1メートルの千石船の模型があり

その大きさに目を引いた。

近江八幡の文化を詰め込んだような資料の数々は入館するだけで時代を感じられる空間であった。

古写真は『町内体操』の写真や『町場の賑わい』など様々な様子に分けて展示されていた。古写真の横に現在の写真が貼られているものもあるため、どこの写真なのかわかりやすく、今と昔で比較できるのが興味深かった。

これらの古写真は市の方で撮影したもの、持っている人からお借りしたりと、いろいろな方々の協力で開催されており、地域の一体感を感じることができた。

来館者は京都や名古屋から来ている人が多く、また自分の小さいころを思い出して懐かしむために来る人も多いそうだ。資料館・瓦ミュージアムの統括マネージャーをされている前坂雅春さんは「自分の人生を振り返るというこ

近江八幡市には郷土資料館、近江商人の当時を忠実に再現した歴史民俗資料館、重要文化財旧西川家住宅などがある。あなたも江戸時代にタイムスリップしてみませんか？

旧西川家住宅

西川家とは約300年続いたとされる代表的な近江商人で、蚊帳や畳表などを主に商売をして財をなした豪商である。今回、旧西川家住宅で知り、驚愕した3つを紹介する。

1つ目は建物の構造だ。天井上に内側に開く『跳ね上げ戸』。ここから荷台が入り、商

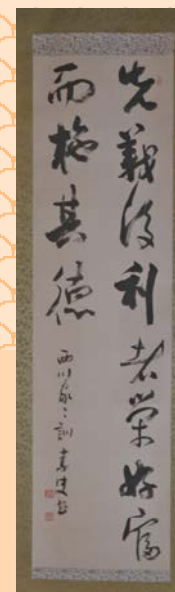
品が入荷される。塀より高い庭の松の木は、その商家のシンボルとして植えられていた。また、松の後ろには表からは見つけにくい隠し扉(座敷玄関)があり、そこから商談相手を通し交渉を行った。現代に比べ、正面玄関ではなく隠して交渉するあたり昔と今との商

居間に掛けられた掛け軸 →
＜意味＞
道理をわきまえて商いをすれば、おのずと利益はついてきて栄える。富が増えるが、それに見合った社会貢献をすることが大切である。

↓商家の娘のおままと道具



ガラスケースの中に展示されているおままと道具だ。当時は商家の娘は他商家に嫁ぐこととされていたため、子供のころからおままと道具で実践し、嫁いだ後も家事をできるように練習していたそうだ。(鈴)



とを与えられたら、それは成功」と語られた。

また古写真の魅力について聞くと「ビデオより写真アルバムは見返すことが多いが、昔のビデオは形式が変動していてあまり残っていない。ビデオは今と昔で比較できないが写真は比較でき、歴史を語ることができる。写真は歴史を伝えていくものだ」と教えてくださった。(鈴)



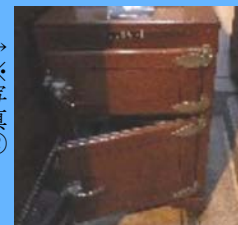
↑現在と昔を古写真で比較

歴史民俗資料館

江戸時代末期に建てられ元は近江八幡警察署長官舎だったものを歴史民俗資料館として開設された。隣には旧八幡警察署である郷土資料館があり、スムーズに移動できるようになっている。壁は赤こんにやくにも用いられている『弁柄』が使われ朱色に近い赤で塗装されていた。資料館の中には、昔の映写機

や『おくどさん』(かまどやその場所)が残されており、その中でも上段に氷を入れ、下段のものを冷やすことのできる昔の『冷蔵庫』は特に印象深かった。このように当時の『近江商人』が使っていた用具や日常品等が忠実に再現されており、生活感が溢れる場所だった。(鈴)

→※写真②
昔の冷蔵庫



←※写真①
おくどさん

